



# キヤリジン新聞

4月号

子ども 大人  
宇和島 えひめ南予  
福島 企業 ダンス NPO  
音楽 食 太鼓 アート

舞い上がれ  
社会を変える  
みんなの力  
休眠預金を活用した事業です

## 春の立間川清掃



当センター近くの川掃除。26名が参加。今回もゴミは少なかったが、4ヶ月ぶりの草は大量。草刈り、集草作業に加え、川ざらいをした泥で土のうを作り、園地復旧用として農家さんへ提供。定期的な川掃除は地域の人と環境問題について考えるきっかけに。川の氾濫対策にも。(伊予銀行環境基金「エバグリーン」及び愛媛県「愛リバー・サポーター」制度を活用して実施)

3月19日、福島県南相馬市のマーチングバンド「Seeds+(シーズプラス)」によるコンサート。20日、交流イベント「つむぐ」宇和島商店街全体で、市内外のNPO団体や企業、平成30年7月豪雨によりつながったボランティアなどが出店。ステージ発表、音楽やダンス、アート、ドローン、子ども食堂など多種多様なお店が並んだ。ポスターも高校生アーティスト「ARTeen(アーティーン)」のメンバーが制作。宇和島にもこんな素敵なお店があるんだ、と発見とともに、地域を越えたつながりを実感。10tトラックステージに司会はシロたろしさん、じゃんけんマンさん、ツンさん。音響はNPO法人夢の里おんがくどうさん。開催直前、福島では地震が発生。2日間、募金活動やグッズの売り上げを寄付。皆様ご協力ありがとうございました。



### 災害でつながった 『絆』大切に

## きずな博『さすけなぶる × BOUSAI ゼミな〜る』



「なりゆきの未来」から「なりたい未来」へ  
全国6校の高校生がオンラインディスカッション！第2クール第4回は、ワークショップ型防災教育ツール「さすけなぶる」とスペシャルコラボ。1日開催、しかもリアルとオンラインのハイブリッド開催と盛り沢山な内容。  
午前中は「さすけなぶる」で、東日本大震災の避難所運営において、実際に起きた問題を解決していきながら学ぶ。現場を想定し、限られた時間は数分間。正解は無い中、最善の方法を選択する。一つ決めるごとに例外が発生し、また対応に追われる。頭を悩ませる時間も無い中、判断の最後の皆は『命を守る』ということ。一番大切な『命を守る』には、どうすれば良いか、そこに立ち返る。午後からの「BOUSAIゼミな〜る」は、各学校でのこれまでの取り組みを発表。前号で紹介した岡山県矢掛高校は、未災地の方に被災現場の匂いを体験、想像してもらう『匂いレシビ』を完成。災害現場別に、金魚のイサやアルコールなど、工夫を凝らした3種類。実際に当センターが再現し、リアル会場で匂いを嗅いでもらった。思わず顔がのける参加者たち。宇和島でも豪雨災害時はこんな匂いだった、と記憶がよみがえる方も。  
福島高校は、高校生主体での避難所運営計画を発表。地域を巻き込み、小中高一緒に訓練する計画、「さすけなぶる」を通しての防災意識の土台作り、そして地域を超えて福島×宇和島など、全国に広げていきたいという構想。回を重ねるごとに大きな広がりを見せる若い力に大人は感服。また来年度が楽しみとなった。

3・11

線香花火ナイト

3月11日線香花火ナイト。午後7時、日本各地をオンラインで繋ぎ、全国一斉に線香花火で追悼。当センター前で近所の皆さんと。コロナ禍でも震災を風化させることなく、災害で繋がった絆を大切に次に備えていく。



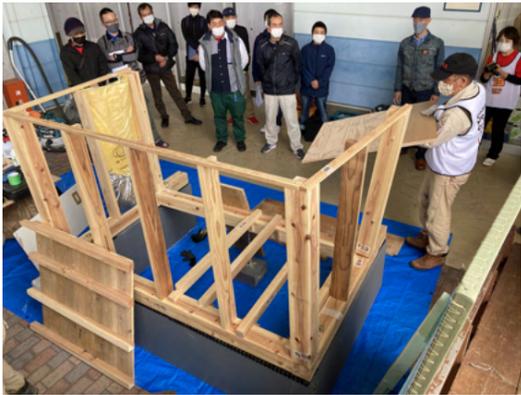
水害時の対応と対策

ワークショップ

3月13日開催。講師は「災害NGO結」前原土武代表。前半は座学、後半は電動工具の使い方など実技が組み合わさった実践的な授業。家屋の大型模型を使い、床下(和室とフローリングの2タイプ)や壁の内部構造を体感しながら学ぶ。手持ちの道具や電動工具を使用し、浸水時の作業順序を確認。家屋復旧はカビとの戦い。電動工具はバッテリー式、同じメーカーで統一することで応用が効き、電気の使えない段階でも早い復旧ができる。思い出の家屋を、最小限の傷で復旧させること。より早い心の復旧に。



前半はしっかりと座学で知識を身につけ



後半の実技で体で覚える

イベントのお知らせは  
センター公式ラインにて



公式 LINE

お困りごとなど  
なんでも投函

つながるポスト



**地域食堂×お困りごと調査**  
2月11日（大浦もてこる食堂）  
2月20日（喜佐方もてこるキッチンカー）  
3月6日（和霊・和霊公民館）  
3月13日（大浦もてこる食堂）

子ども（地域）食堂と連携し、カードゲームや、ちょっと座ってお話ができるカフェコーナーを設置。何気ないおしゃべりの中、地域のお困り事を伺う。天気の日にはご家族連れがたくさん。空き家活用の相談や、スマホに困っているお悩みがあり、その場でミニスマホ講座に。子どもたちが遊べるイベントがほしいという意見が多く、コロナ禍でもできることを連携団体と協力し計画していく。お困りごとは多岐にわたる。行政、社協などにもつなぎ、解決へと導く。地域の婦人部や青年部の皆さんらと協力したり、各地域が盛り上がる仕組みを考えている。

茶話会

座ってできるヨーガ  
スマホ講座

2月17日「座ってできるヨーガ」

冬場に凝り固まった体をほぐす。無理せず座ってできるストレッチや呼吸法などゆったりと。ヨーガの後には講師によるオカリナ演奏のサプライズ。心身共にリラックスした雰囲気。



3月17日「スマホ講座」

昨年開催した「スマホ講座」の第2回目。スマホに関するお悩みは多く、地域食堂でのお困りごと調査でもあがっていた。行先を簡単に調べられるGoogleマップの使い方、容量と通信量の違い、月額料金の見方、アップデータのやり方、シニア向けおすすめアプリの紹介など、前回の要望に沿った内容に。参加者のお悩みはさまざま、まだまだ個別にゆっくり相談できる時間がほしいと言っていた。今後開催予定。



出張防災教室 in 三間

2月16日（水）

三間小学校より防災教室の依頼を受け、センタースタッフとボランティアバンクからのボランティアさんで出張。お昼から2時限のコースで、5年生35名に段ボールベッドの活用講座、パラボードの編み方講座を行った。段ボールベッドは知ってるけど、実際に組み立てたことはない。寝心地、強度はどうか。みんなで協力しベッドを組み立て、活用について学んだ。講師は佐々木宣夫さん。一度やるとイメージができ、備えとなる。パラボード講座では、なんと生徒に経験者が。生徒同士で助け合って編むことができた。先生がカメラマンとなり、動画を見て復習。パラボードは強さと軽さが特徴。テント設置ほか、緊急時の靴ひも、着火剤、洗濯物干しなど災害時にも役立つ。子ども達からは、また授業でやってほしいとの声。楽しみながら学ぶ防災講座となった。



<発行元・お問い合わせ先>

特定非営利活動法人  
**宇和島NPOセンター**  
〒799-3703  
愛媛県宇和島市吉田町東小路甲 71-1  
**0895-49-3563**  
info@uwajima-npo-center.jp

賛助会員募集中



助成金情報  
愛媛ボランティアネット